

**A** (議長) 意見として承ります。6号機運転再開容認の経緯については市及び県のホームページをご覧下さい。

**Q** 今まで行政から安全という説明を受けてきたが、今回のトラブル隠しは本当に安全が安心か、不安が大きい。その行政責任をどう考えるか。

**A** (県) 今回のような虚偽・不正を行政が許してしまったことを率直に反省。国にはもつとしっかりと欲しいが、県としても地域住民の目線で見ることにより緊張感を高め、併せて行政としてチェック機能を高めたい。自分で疑問を聞く、チェックすることで地域と発電所の信頼・安心・納得が得られるもので、地域の会の意義はすばらしい。

**Q** 虚偽を抱えながら地元でプルサーマルを推進してきたわけだが、今後、機会があればプルサーマルを実施するのか。

**A** (東京電力) プルサーマルのお願いの一方で不正・不祥事の話をしなかったことは大きな責任があり、責任者の引

責辞任により最大の社会的責任を明らかにした。プルサーマルの安全性、必要性、計画は持ち続けており、信頼を再度頂くことを前提に再度プルサーマルの説明を行いたい。

**Q** 会として今後どういう議論をするのかという話しが大事と思うが。

**A** (議長) この場での結論は難しく、今後も検討していきたい。



**Q** 従来の検査で傷が無いのにここへ来て次々と傷が発見されている。前の検査は間違っていたと何で言わないのか、反省が足りない、まだ信用できない。

**A** (東京電力) 一連の不祥事を踏まえ、原点に立ち返り、反省をし、今後の点検に生かしていきたい。

**Q** 東電は市民の大勢が理解した時に運転再開と言っている一方、夏に10基動かすキャンペーンを張っている。

**A** (東京電力) 夏に8、10基の原子力発電所が欲しいという言い方はしているが、住民の安心を軽んじ、安全をおろそかにして運転再開を優先することは考えていない。

**Q** この会があるのがわかっていのに6号機を運転再開した理由は。この会や市民の声は反映されないのか。市議会の選挙中に再開したのは。話が違う。

**A** (東京電力) 会の意見は尊重し、皆さんの声に近づく努力をしている。6号機の運転再開はこれまでの説明、行政の意見、議会へは個々の説明など自主的・総合的に判断して運転再開したもの。

**Q** 品質保証上の最高責任者は誰でその権限は何に基づいているのか。信用回復には品質マニュアルの精度を高める必要があるのでは。

**A** (東京電力) 所内の品質保証基本計画書に基づき最高責任者は所長と定められており、その権限もそこに明確に定められている。これはISO9001\*が下敷きであり、現在その基本的考え方に沿って不備等を全面見直ししている。併せて品質保証体系の整備だけでなく社員全員の品質保証に係る資質の向上にも力を注いでいる。

**(\*) ISO9001とは**

ISO (国際標準化機構) は、国際的に物やサービスの標準化を進めている団体です。ISO9001は、品質面での管理の仕組み(仕事のやり方)を標準化している国際規格です。